

健康で長生きすることは誰もが望むことです。栃木県は残念ながら、平均寿命は全国平均よりも低く、いつも下位に低迷

「健康」は全ての世代にとって最大の関心事。県医師会に所属するドクターたちが、病気や医療に関するさまざまな質問に回答していく。初回は太田照男会長が同会の概要について紹介する。



1

県医師会とは



太田 照男
おおた てるお

死因の年齢調整死亡率は、男子全国ワースト9位、女子全国ワースト2位であり、特に脳卒中の死亡率は、ワースト10位より脱却できていません。急性心筋梗塞も死亡率は高い状況です。しかし、健康寿命は全国と比較して、男性は17位、女性は5位と高位を保っています。このことにより、県は2014年4月より、健康長寿とちぎづくり推進条例を施行し、さらに、県民の健康

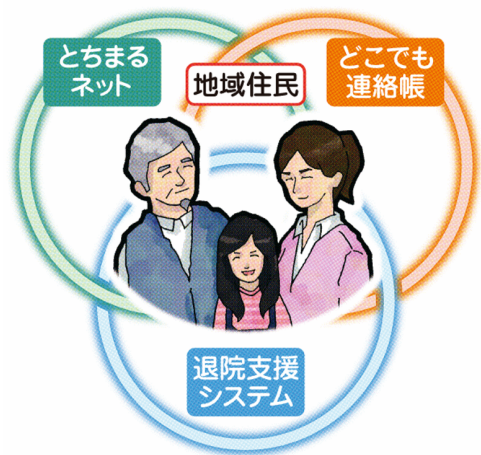
長寿を実現するため、県民健康づくり関係者、事業者、行政等が参加した健康長寿とちぎづくり推進県民会議を設立しました。

県民の健康に対する関心は高く、医療機関に対する相談として県医師会が設置している相談窓口には年間40～50件、県医療安全相談センターには年間約1200件の相談が寄せられています。県医師会では、そういった相談に口頭で回答しています。また、健康フォーラムや県民の皆さんが参加する講演会を企画しています。

県医師会長。医療法人慈恵会白澤病院（宇都宮市）理事長。東京慈恵会医大卒。69歳。

在宅医療支援にも力を入れています。ICT（情報通信技術）を利用した病院診療所・訪問看護ステーション・介護事業所と連携した「とちまるネット」「どこでも連絡帳」を用いてネットワークを作り、相互の情報を共有してよりよい医療を目指

しています。また、在宅療養家族研修会を開催し、在宅療養を理解していただくため、家族に喀痰吸引、体位交換、おむつの当て方などの実習を年2回実施しています。これからは住み慣れた土地で安心して暮らすことが求められ



イラスト/松本成貴

SHIMOTSUKE GRAPHICS

県民支える身近な存在

ているので、在宅医療に寄与しています。さて、次回からは本コーナーで健康に関する質問に回答していきます。例えば、食事・運動・薬物・健康食品等で最近話題になっているいろいろな健康法などにも答え、県民の健康に寄与できれ

ばと思っています。

（第2、4金曜日掲載）

ドクターへの質問を募集します。病気の症状や経過などはなるべく詳しく書いてください。名前（匿名可）、年齢、性別、連絡先（住所、電話番号）を明記し、〒320-8668 6、下野新聞社くらし文化部「健康よろず相談室」係へ。住所不要。FAX (028)・625・1185)、メール (dottoko@shimotsuke.co.jp) でも受け付けます。